

Oil Market Review 25第4号

2025年（令和七年）

4月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週(4月17日～23日)の国際石油市場は、米国の関税政策をめぐる混乱、対イラン経済制裁強化の動き、米国の利上げをめぐる動向等を主な要素として、大きく動いた。

NYのWTI原油先物市場は、17日続伸の64.68ドルと2週間ぶりの高値を付けたが、18日の聖金曜日の週明け、21日は反落、22日は反発、23日反落の62.27ドルと不安定に推移した。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)も、前週(4月10日～16日)は65.40～66.40ドルの範囲で推移したが、当週は、4月17日68.10ドル、18日69.40ドル、21日68.30ドル、22日68.20ドル、23日69.80ドルだった。

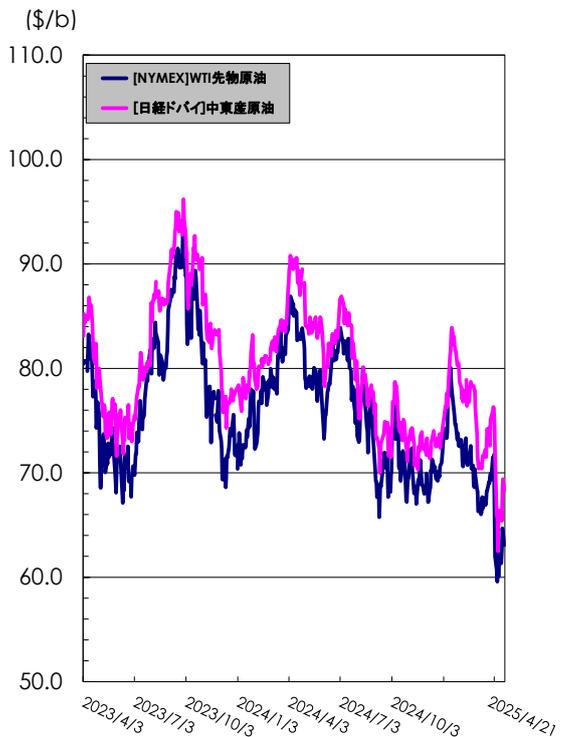
対ドル為替レート(TTM)は前週(4月10日～16日)142.93～146.91円の範囲で推移したが、当週は、4月17日142.53円、18日142.46円、21日141.24円、22日140.96円、23日142.10円だった。

財務省が4月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格73,805円で前旬比

1,437円安、ドル建てでは79.14ドルで前旬比0.93ドル安、為替レートは1ドル/148.27円。また、3月月間の原油輸入平均CIF価格74,771円で前月比3,418円安、ドル建てでは79.49ドルで前月比0.91ドル安、為替レートは1ドル/149.54円。

そのような中で、4月21日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比1.4円安、軽油も同1.4円安、灯油は同15円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は185.1円だった。4月24日～30日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、原油価格上昇で復活し、0.9円(補助金がない場合の次週予想価格185.9円で、基準価格185円との差)と、実績ベースでは前週比0.9円の増額となった。

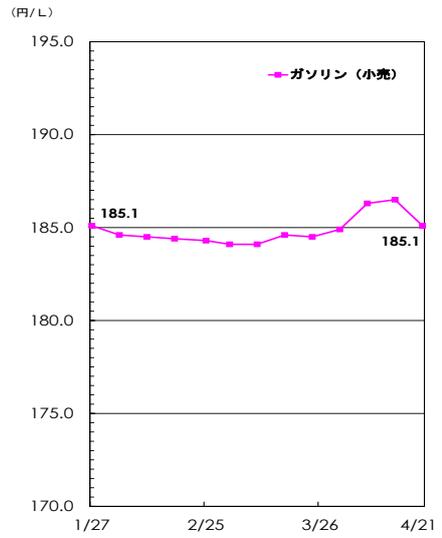
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/13～4/19	2,930 ▲25	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	84.6 ▲0.7	▲-
	原油在庫量 (千kl)	4/19	10,411 ▼-547	▼-
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	4/21	68.30 ▲2.20	▼-18.7
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	4/21	63.08 ▲1.55	▼-19.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	79.14 ▼-0.93	▼-3.94
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	73,805 ▼-1,437	▼-4,286
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.27 ▲1.13	▲1.17
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/21	142.24 ▲1.99	▲13.56



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/19	1,675 ▲ 17	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/15 ~ 4/21	87.0 ▼ -2.4	▲ 4.0
価格	(TOCOM/中部)	4/21	89.0 ▼ -1.0	▲ 6.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/21	185.1 ▼ -1.4	▲ 10.1

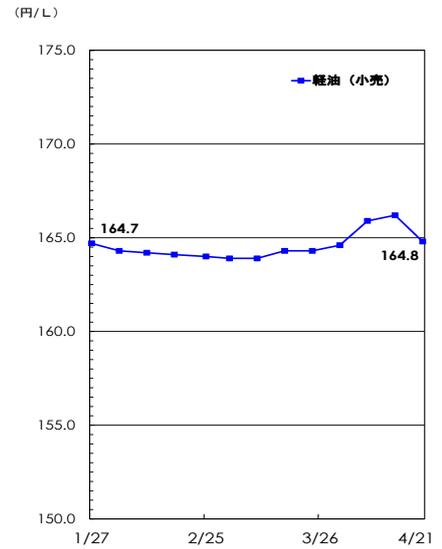
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

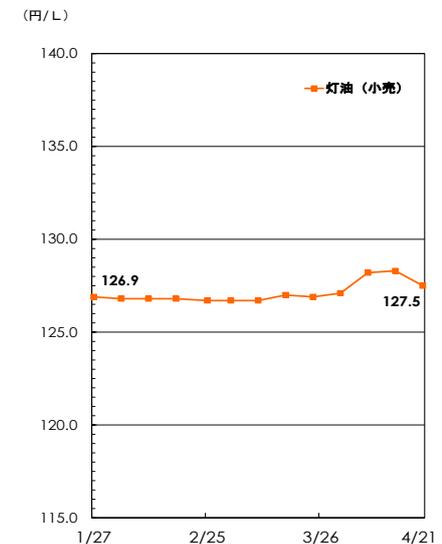
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/19	1,503 ▲ 205	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/15 ~ 4/21	91.0 ▼ -2.1	▲ 7.0
価格	(TOCOM/中部)	4/21	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/21	164.8 ▼ -1.4	▲ 10.1

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	4/19	1,528 ▲ 22	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 4/15 ~ 4/21	87.0 ▼ -2.4	▲ 4.0
価格	(TOCOM/中部)	4/21	90.0 ▼ -2.0	▲ 7.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/21	127.5 ▼ -0.8	▲ 10.4



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(4月10日～16日)のNYMEX・WTI先物市場は60.07～62.47ドルの範囲で推移した。

当週、4月17日は、このところ、米国・イラン間の核開発協議に楽観的な見方もあったが、この日、米国は、イランに圧力をかけるため、イラン原油を輸入する中国の独立系製油所・輸送タンカーを経済制裁対象に追加指定、緊張が高まった。また、この日、トランプ大統領は中国との関税対立に楽観的発言、世界経済の後退懸念は緩和し、続伸した。5月物終値は、前日比2.21ドル高の64.68ドルと、3週間ぶりの高値を付けた。

週末18日は、聖金曜日の休日で休場。

週明け21日は、一転、19日の第2回米・イラン核協議を双方とも前向き評価、緊張は緩和、また、トランプ大統領は、米国の利上げを主張、利上げに慎重なパウエルFRB議長解任を検討中と報道されたことで、金融市場は混乱し、3営業日ぶりに反落した。5月物終値は前日比1.60ドル安の63.08ドル。

22日は、この日、米国はイランの原油・液化石油ガスの取引業者を経済制裁対象に追加指定、再び緊張が高まった。他方、ベッセント米財務長は、米中の関税問題の先行きに楽

観的発言、経済後退懸念は後退し、反発した。ただ、この日発表の国際通貨基金(IMF)の2025年世界経済成長見通しは、米国の関税政策を理由に、成長率を2.8%に下方修正した。5月物終値は前日比1.23ドル高の64.31ドル。

23日は、OPECプラスの複数メンバーが、他のメンバー国の合意違反の超過生産を背景に、6月からの減産緩和(増産)の拡大を検討中との報道があり、需給緩和の拡大が懸念され反落した。この日発表の米国在庫情報は、原油在庫が増加したものの、製品在庫が減少し、大きな影響はなかった。この日から中心限月に繰り上がった6月物終値は同1.40ドル安の62.27ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)による4月23日発表の18日現在の米国在庫週報によると、原油在庫は前週比20万バレル増の積み増し(市場予想:80万バレル減)となったが、ガソリン在庫450万バレル減(同:140万バレル減)、中間留分在庫240万バレル減(同:増減なし、横ばい)と、製品在庫は取り崩しとなった。

EIAによると、4月21日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.7セント安の1ガロン3.141ドル(117.9円/ℓ)と2週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比4.5セント安の1ガロン3.534ドル(132.6円/ℓ)と2週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、4月18日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の481基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年04月13日～04月19日に休止したトッパー能力は14.0万バレル/日で、前週に対して1.8万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は293.0万klと、前週に比べ2.5万kl増加。前年に対しては21.1万klの増加。トッパー稼働率は84.6%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては9.0ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

4月19日時点の在庫は、ガソリン、灯油、軽油、C重油で積み増しとなり、その他油種で取り崩しとなった。

ガソリンは167.5万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては0.8万kl多い。

灯油は152.8万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては31.3万kl多い。

軽油は150.3万kl、前週差20.5万kl増。前年に対しては20万kl多い。

A重油は71.9万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては5.5万kl多い。

C重油は172.8万kl、前週差3.5万kl増。前年に対しては0.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (4/19)	前週 (4/12)	前週比	
ガソリン	1,675	1,658	▲ 17	(1%)
ジェット燃料	636	662	▼ -26	(-4%)
灯油	1,528	1,506	▲ 22	(1%)
軽油	1,503	1,298	▲ 205	(16%)
A重油	719	727	▼ -8	(-1%)
C重油	1,728	1,693	▲ 35	(2%)
合計	7,789	7,544	▲ 245	(3.2%)

5 国内/元売会社製品卸価格

4月15日～21日のドル建て中東原油価格は前週比値上がりし、為替レートは円高だったが、元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。4/24からの補助金は0.9円となるが、実質卸価格は値上がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

4月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円安の185.1円、軽油も同1.4円安の164.8円、灯油は18%ベースで同15円安の127.5円(1%ベースでも0.8円安の127.5円)。ガソリンは4週ぶりの値下がり、軽油も7週ぶりの値下がり、灯油も4週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが2府県、横ばいが2県、値下がり43都道府県だった。全国最安値は埼玉県と愛知県の179.5円、その次は岩手県の180.0円であった。他方、最高値は鹿児島県の194.6円。最も値上がりしたのは愛媛県(同0.2円高)最も値下がりしたのは山口県(同4.3円安)だった。

次回調査時(4/28)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/21)	前週 (4/14)	前週比	直近高値
レギュラー	185.1	186.5	▼ -1.4	2023/9/4 2025/4/14 186.5
灯油	127.5	128.3	▼ -0.8	08/8/11 132.1
軽油	164.8	166.2	▼ -1.4	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

小売価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第5号) の公表は、5/2 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。